

NTT
docomo

平成のドコモを
振り返る
ファクトブック

2019.3



平成とともに進化し続けた通信端末たち

昭和60年発売

車載・携帯兼用型自動車電話

自動車から離れても利用できる車載・携帯兼用型自動車電話は、電電公社の民営化の年1985年9月に100型が完成。その名も「ショルダーホン」。重量が約3kgで、文字どおり、肩から下げて持ち運ぶことができ、自動車から離れても利用できる車外兼用型自動車電話。



ショルダーフォン

昭和62年発売

国内初の携帯電話

NTTにとって初めての携帯電話サービスが開始されたのは、1987年4月。この新サービスに伴って発売された携帯電話1号機「TZ-802型」は、体積500cc、重量約900gと重く決して、手軽な携帯電話ではなかった。しかし、携帯電話専用機となり、1987年は名実ともに携帯電話の始まりの年になった。



TZ-802

昭和62年発売

数字表示タイプのポケベル



カナ文字表示タイプの「センチーA」

たとえばこのように伝えていました。

114106 : アイシテル

10105 : イマドコ

500731 : ゴメンナサイ

無線呼出しサービスは、1958年に米国でサービスが開始されたが、日本では1968年7月、電電公社（当時）が150MHz帯を利用した自動ダイヤル交換方式の「ポケットベル」サービスとし東京23区で開始された。当時は鳴音するだけのサービスだったが、オフィスを離れて行動する営業マンへの連絡など、それまでの固定電話利用では得られない利便性をもった画期的なサービスでもあった。ポケットベル利用の変化が1987年に始まり、数字表示式が発売されたことが契機となり、高校生などの若年層において、単なる連絡手段としてだけでなく、数字による「語呂遊び」など、遊びの要素も付加した利用が始まり、「遊べるコミュニケーション・ツール」としての一大ブームがまき起こった。当時、ポケットベルを通じて連絡しあう友達を「ベル友」などの若者言葉が使われていた。

平成3年発売

ムーバ（第1世代）



ムーバシリーズ

携帯電話の小型・軽量化が進み平成3年4月、超小型携帯 mova（ムーバ）のサービス開始によって、文字どおりのハンディな移動電話となった。また、ムーバの登場は携帯電話の契約数に大きな影響を与えた。

1989年度：13万2000台、1990年度：26万台だったが、ムーバの登場した1991年度には53万台にも達した。4メーカーから各1機種が発売された「ムーバ」は、平均体積が約150cc、重量が約230gと従来機種に比べ大幅に小型・軽量化され、もちろんその時点での世界最小機種だった。

平成11年発売

iモード端末



F501i HYPER

iモードは1999年2月にサービス開始以来、2000年3月末の1年間で560万台突破という急激な伸びがあった。

iモード携帯電話だけで、銀行振り込みやコンサートチケットなどの予約、レストランガイドやタウンページ検索など生活に身近で便利なオンラインサービスが利用可能。

携帯電話「単体」でインターネットにアクセスができるので、これまでパソコンユーザ等を中心に行っていたオンラインサービスが誰でも簡単に利用できるようになり、プライベートからビジネスまでの情報ツールとしての可能性がさらに広がった。

平成17年発売

スマートフォン



XperiaXZ3 (SO-01L)

一般的には、2000年代後半までに普及していた従来型の携帯電話（フィーチャーフォン）と比べて、より高機能で、PCと携帯電話の性格をあわせもったものをスマートフォンという。携帯電話の延長で通話やメール等のコミュニケーションの他、SNSや動画視聴、ゲーム、ネット検索やショッピング等にも使われている。

平成にはこんなことがありました

製品

昭和60年
ショルダーホン発売



3年
超小型携帯電話（ムーバ）発売開始
折り畳み式も登場 一般への普及始まる
（ムーバN）



8年
着メロ搭載（N103 HYPER）



11年
らくらくホン（P601es）
カラー液晶（F502i HYPER）



元年

10年

サービス



7年
PHS
サービス開始



9年
SMS
サービス開始

11年
iモード
サービス開始

広告

4年



9年



他社

12年
カメラ付き携帯登場



14年
ドコモから
カメラ付き
ケータイ発売
(SH251i)

17年
ドコモにおける
初代スマホ
(M1000)

20年
日本初Andorid
搭載スマホ
(HT-03A)

30年
最新スマホ
(SO-01L)



13年
第3世代登場
(3G)

26年
第4世代登場
(LTE-Advanced)

20年

30年

14年
iショット

18年
ワンセグ開始

17年
iD開始

16年
おサイフケータイ開始

13年
iアプリ、
FOMAサービス開始

21年
BeeTV (のちのdTV)
サービス開始

29年
DAZN
for docomo開始

30年
d払い開始

FOMA

20年
iコンシェル

13年



17年
ドコモダケ

27年
ポインコ

20年
日本でiPhone発売開始



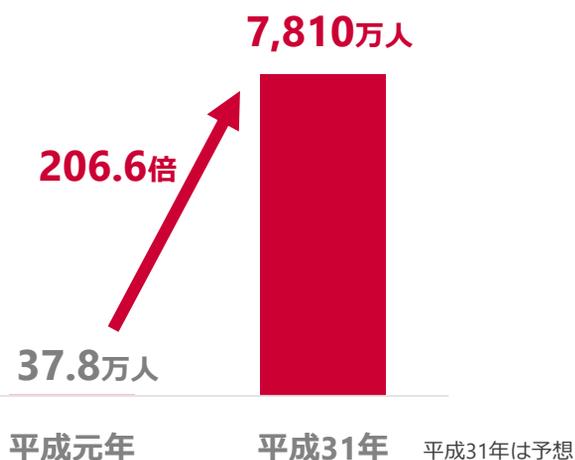
13年
写メール開始



『数字』で振り返るドコモの歩み

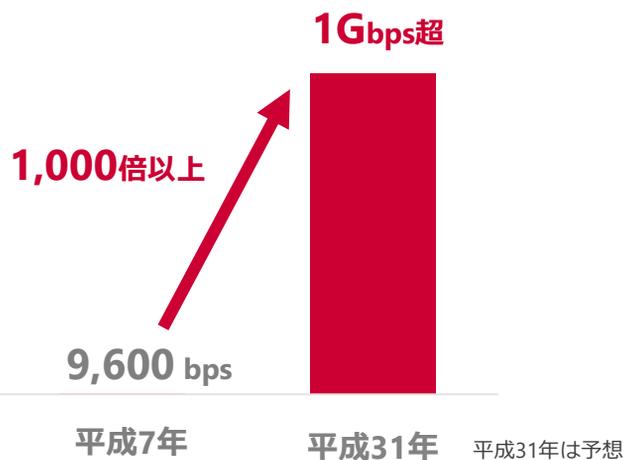
契約者数/会員数

携帯電話サービス契約者数は200倍以上に増加した。平成の時代を通じて、みなさまの生活にとって携帯電話がなくてはならないものになっていった。dポイントクラブ会員数も6,800万人を超え、携帯回線契約者の方以外の生活も支えている。



通信速度

「デジタルムーバ HYPHER」が開始した1995年の通信速度は9,600bpsだったが、最新のWi-Fiルーターではすでに1Gbpsを超えるものが登場しており、携帯電話が通信できるデータ量が当時から考えられないほど大きくなったことで、ユーザーの生活のなかに不可欠なものとなった。



基地局数

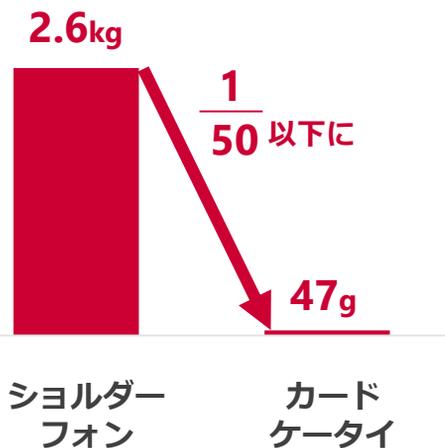
平成当初は230局だった基地局は、現在では約20万局となり、都市部だけでなく、全国どこでも電波が繋がりやすい環境を作れるよう積極的に設置を進め、いまでは日本全国を広範囲でカバーできるようになった。



平成31年は予想

端末重量

携帯電話の元祖と言われるショルダーフォンは、なんと2.6kgもあったが、最新のカードケータイは、世界最薄・最軽量※を誇り、重さはなんと47gと、卵1個分と同じだ。30年間でこれだけの技術の進歩があった。



※2016年1月～2018年8月末までに発売・発表された4G対応携帯電話端末（スマートフォンは除き、ストレート形状のものに限る）2018年9月5日現在、京セラ株式会社調べ。

ピーク時の契約者数

ポケットベル契約者数ピーク **649**万契約（平成8年6月）

iモード契約者数ピーク **4,907**万契約（平成22年7月）

ポケベル

早打ちしないと電話料金が高かった

早打ちできるのがリスペクトの対象だった

数字だけで、いかなる表現も可能だった

家がダイヤル式の電話だと、返信するために
わざわざ公衆電話まで行った

ポケベルを鳴らすために公衆電話に長蛇の列ができた

フィーチャーフォン（ガラケー）

着メロに凝って、自分で作ったりした

連絡先を赤外線で交換した

電波が悪いとケータイを振ってみた

恋人とおそろいのメールアドレスにした

気になる人からの返信がこないと
センター問い合わせをした

電池パックにプリクラを貼っていた

電波がバリ3でないと不安

たくさんストラップをつけた

絵文字が文化になった

相手によって着信音を変えていた

メールに「RE:RE:RE:…」が溜まっていった

iモードのマークが点滅すると、
おっ！メール来るな！とワクワクした

時代を彩る名物端末たち

平成11年2月発売

F501i HYPER

記念すべきiモード初号機



富士通製。
世界初の携帯電話による
IP通信サービス
「iモード」対応1号機。
インターネットに
つながる携帯電話へと
進歩する第一歩となっ
た。

平成11年12月発売

平成11年4月発売

Doccimo SH811

初のケータイ・PHS一体型端末



シャープ製。
携帯とPHSどちらも
使えるドッチーモ端
末。

平成12年6月発売

F502i HYPER

日本初カラー液晶端末



富士通製。
日本で初めて本格的に
カラー液晶ディスプレ
イを採用した携帯電
話。

平成13年10月発売

N209i HYPER

誰もが知っているオーソドックスな
折りたたみケータイ



NEC製。
折りたたみ式で、12色のイ
ルミネーションランプ
や3色のバックライト
付き4階調モノクロ
液晶を搭載。

平成15年6月発売

P2101V

日本初 TV電話ができる第三世代ケータイ



松下通信工業（現：パナ
ソニックモバイルコミュニ
ケーションズ）製。
テレビ電話ができる
FOMAのフラッグシップ
機として導入された。

SO505i

回転させるとボタンが現れる変化球端末



ソニー・エリクソン・
モバイルコミュニケー
ションズ(現ソニーモバ
イルコミュニケーション
ズ)製。
130万画素のCCDカメラ
を搭載したiモード端
末。端末を回転させる
ことで、ボタン部分が
現れる回転式オーブ
ン
スタイルが特徴。

平成15年5月発売

WRISTOMO

ウェアラブル端末の先駆け



セイコーインスツル
(SII) 製。
商用としては初の腕時計型ウェアラブルPHS電話機。

平成16年7月発売

SO213i premini

(当時) 世界最小ケータイ電話



ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ製。
高さが90mm、重さ69gと当時では世界最小サイズ。

平成19年4月発売

らくらくホンベーシック

デザインが洗練されたらくらくホン



富士通製。
NTTドコモの折りたたみ式第三代携帯電話(FOMA)端末らくらくホンシリーズFOMA F883iのブランド名。

平成22年3月発売

F-04B セパレートケータイ

変わり種端末の先駆け



富士通製。
世界で初めてディスプレイ部とダイヤルキー部を分離可能なセパレートスタイルで、新たな利用形態を提案したモデル。

平成14年11月発売

N504iS

カメラ付きケータイの代表格



NEC製。
当時としては珍しく厚さ20mmを切る。
売れ筋のN50Xiシリーズにカメラが付き、人気が非常に高かったモデル。

平成24年3月発売

BrackBerry® Bold™9900

ビジネスマンといえばブラックベリー



カナダのResearch In Motion(現ブラックベリー)製。
高いセキュリティ性を誇る企業向けソリューションを備え、ビジネスマンに好評。

平成30年2月発売

M

2画面で2つのアプリを同時利用



ZTE製。ドコモが企画。
1つの画面で動画を見ながら、もう片方の画面で友達とチャットを楽しむなど、従来とは異なるスタイルでの利用を提案。

平成30年11月発売

KY-01L

名刺サイズのカードケータイ



京セラ製。ドコモが企画。
薄さ5.3mm、重さ47g。4G LTE対応の携帯電話として「世界最薄最軽量」。低消費電力が特徴の電子ペーパーを採用。iFデザインアワード金賞を受賞。

Q&A

Q

平成最初の携帯は？

A

TZ-803

Q

ドコモのポケットベル（クイックキャスト）が終了したのはいつ？

A

2007年3月31日 ※報道発表は2005年4月25日

Q

iモードはいつ始まった？

A

1999年2月22日。今年で20周年を迎えた。

Q

なぜ高齢者がスマホを持つようになったのか？（らくらくスマホ教室インタビュー）

A

孫とLINEをするため。サークル内で連絡をとるため。
旅行するとき翻訳してもらうため。

Q

ポケベル・PHS・ガラケーからスマホへ受け継がれてる技術やサービスは？

A

絵文字・月額コンテンツ・おサイフケータイ(スマホ決済)など

Q

歴史展示スクエアには何台のケータイ・PHS・ポケベルが展示されているのか

A

約160台。
(携帯142台、PHS7台、ポケベル12台)。

Q

漢字対応ショートメールはいつから？

A

1998年1月発売のデジタル・ムーバ206 HYPERシリーズから対応。

Q

カラー液晶はいつから？

A

1999年12月発売のデジタル・ムーバF502i HYPERがドコモ初。

Q

初めて着メロが搭載された機種は何？

A

1996年 N103 HYPER

お問い合わせ先

株式会社NTTドコモ 広報部

TEL 03-5156-1366

